

令和2年度(10月) 北海道地区需給情報連絡協議会【構成員からの意見・情報(公表用)】

○木材需給動向		
分野	①現状	②見通し等
森林組合	<ul style="list-style-type: none"> 在庫の整理がつき、各工場が受入再開。 9月以降、若干工場の稼働率が上向き。 製品受注量は4～5日分(以前は1～2日分) 	<ul style="list-style-type: none"> 製品オーダー状況次第であり不透明。 コロナウイルスの状況に左右される。
素材生産	<p>【素材生産】</p> <ul style="list-style-type: none"> 請負事業を実施している事業者については直接的なコロナによる影響は少ないが、立木伐採では丸太の受入制限や価格の低下が見られている。カラマツについては材の動きが見られるものの、トドマツについては取引に苦労している。 素材生産量は請負含め平年並み、立木販売量は前年比50～60%。 購入している立木物件では、工場の受け入れ制限、丸太の販売価格の下落など販売状況が良くないことから、今年度の作業計画(事業)を変更(延期)している組合員が多い状況だが、一部では11月から立木物件の伐採を予定している組合員もいる。 国有林の素材生産請負においては各社順調に進めている。生産した素材も価格の低下がみられるが、買受されている状況。素材の販売が厳しい中、常時生産を続けている業者もいるが、生産調整を行っているところもある。もともと、販売ルートを多く持っているところは良いが、少ないところは受入制限、樹種により販売停止もあり全てを売るのは難しい状態が続いている。 立木購入箇所と請負等の売り材の無い素材生産を調整しながら進めている状況。 <p>【素材販売】</p> <ul style="list-style-type: none"> 売れない材は劣化し価格を下げるか、原料材になっている。 製品(丸太)は、一般材はなかなか売れないが、原料材は木質バイオマス発電の燃料としての需要もあり、比較的影響が少ない。 受入制限、材種によっては受入停止の状態、売れない材は価格を下げ販売している。 天候により山土場から運材のできない日も多く、会社土場に堆積し受入制限に対応している。 合板用材は一時受入制限を解除したが、トドマツは再度受入制限を行っている。価格も下落。 梱包用材はトド、カラ数量制限での販売。 アカエゾは売り先が無く原料材として販売。紙需要の減少によりパルプ材の価格下落。おが粉用で引き合い強い。 移出合板材(カラ・トド)が動き出している。 	<ul style="list-style-type: none"> これから請負事業や造林事業が徐々に完了していくことから、手山の立木伐採に移行していくことになり、トドマツの需要が回復してこない、現状より厳しい状況になる。また、今後の立木等の事業量確保に向けて難しい判断も求められる。 今後も同様と予想している。コロナの影響とはいえ、立木販売がここまで減るとは予想していなかった。この先もこの数量しか出ないのであれば、事業量確保のため民有林の立木主体に経営シフトを考えなければならぬ。今後も、しばらくこの状況は続くと思える。 12月以降(冬期材)は、製材工場等で来年度用の買い入れを多少はしてもらえんと思われが、工場の受け入れ制限、丸太の販売価格の下落などが、このまま続くと買い受け立木物件や民有林事業の実施、さらには、経営状況に影響が出ることが懸念される。 木材工場が徐々に回復してきているようだが、素材の販売に関しては厳しい状況が続く。現在、生産を調整、減産しているところが通常生産になると、材種によっては供給過多になり、価格の低下と売れない状況が続くと見込んでいる。 トドマツは現状が続くがカラマツは不足感がある。材の劣化や売り先がなければパルプ原料材、おが粉用で販売。発電・おが粉用で需要は続く。悪い状況続けば梱包用材・合板用材から移出に流れる材の増加が見込まれる。
木材加工	<p>【製材】</p> <ul style="list-style-type: none"> 8月を底に9月より回復傾向は見受けられたが、10月現在に於いても7月までと同程度の受注に留まっており、実質的に回復基調までには至っていない。 カラマツ・トド松ともに、ラミナは順調に調達できている。春先の緊急事態宣言下の外出制限の影響で工事に2～3カ月の遅れとなっている印象。 原木価格は下降傾向だがまだ高い。 工場稼働状況は25%減程度、余剰人員を造林作業で受け入れるなどして対応。 針葉樹製材については、夏場から変わらず前年対比20～30%落ちのままの状況にある。原木在庫については、流通による入荷量は少ないが、製材品の在庫調整の為使用量も減っており原木在庫は約4.0ヶ月となっている。 広葉樹製材は、家具の需要が少ない状況が続いているため、工場も生産調整を行っている。原木在庫は、ナラ以外の樹種は年度内使用量を確保している。 <p>【集成材】</p> <ul style="list-style-type: none"> カラマツ・トド松ともに、ラミナは順調に調達できている。春先の緊急事態宣言下の外出制限の影響で工事に2～3カ月の遅れとなっている印象。 <p>【合板】</p> <ul style="list-style-type: none"> 生産：受注量に合わせた生産を継続。 受注：昨年よりは落ち込んでおり厳しいが、その中でも何とか順調に推移している。 原木：受入制限により、在庫調整は進んでいる。 <p>【チップ】</p> <ul style="list-style-type: none"> チップ工場については、製紙用チップの落ち込みが続いている為、製紙用の他バイオマス用のチップを加工し毎月の生産量を確保している。原木在庫については工場により差があり、1.0～3.0ヶ月となっている。 	<p>【製材】</p> <ul style="list-style-type: none"> 産業用資材(梱包・パレット)は例年10～12月までにかけて、繁忙期にあたるが、今期については米中貿易摩擦+コロナ禍の影響により低調に推移しており、本格的な回復基調が出始めるのは、早くても年明けになるのではないかと。 例年より仕事の遅れから冬季間も仕事が継続される見込み。コロナの影響で、遅延していた物件や一時中止となっていた物件も来年にかけてこれから増加してくる見込み。 需要・製品価格の見通しは不透明。 冬場は造林作業がないため人員の余剰を懸念している。 今後冬場を迎え、更に製材品の需要が減り回復が望めない。広葉樹製材は現状維持も難しいと思われる。 <p>【集成材】</p> <ul style="list-style-type: none"> 例年より仕事の遅れから冬季間も仕事が継続される見込み。コロナの影響で、遅延していた物件や一時中止となっていた物件も来年にかけてこれから増加してくる見込み。 <p>【合板】</p> <ul style="list-style-type: none"> 生産：受注状況に応じて稼働する 受注：年内は現状維持と見込んでも、来年以降は不透明 原木：今後も生産量にあわせて発注する季節柄、雨・雪の影響による入荷不足を懸念 <p>【チップ】</p> <ul style="list-style-type: none"> 製紙会社の動向により左右される。

木材流通	<p>【製材、合板等】 ・製材工場・合板工場ともに徐々にではあるが、原木在庫調整が進みつつある。</p> <p>【原料材】 ・トドマツ:各社在庫量は3ヶ月程度、製品受注も大幅な落ち込み無く価格も横ばい。DIY向け等新たな需要もでてきている。 ・カラマツ:梱包・パレット工場は減産中だが、需要回復先もあり生産調整は一部解消されつつあるが各社原木在庫にはバラつきあり。価格は小幅な動き。 ・パルプ用丸太:製紙原料は需要減退で価格に動き。共に低調に推移している一方でバイオマス原料は流通材入手・公売物件落札が順調に進み在庫を積み上げつつある。 ・移出合板用丸太:上期は前年比30%減の出荷、トドマツの受入制限が大きい。トドマツは受入再開もあり今後増加見込み。</p> <p>【全般・その他】 ・製品生産に関しては、依然、生産調整を継続中の工場もあるが、多少受注が戻りつつある模様。</p>	<p>【原料材】 ・素材公売等は品痛み等もあり応札は一部のサイズを除き低調であるが、今後の出品量如何では価格にも影響が出る可能性あり。</p> <p>【全般・その他】 ・自動車産業等、一部での荷動きに加え、冬季に備えた荷動きの情報もあるが、全体的には未だ見通しが立たない状況。 ・全体的に製品の荷動きが出てきており、原料調達も今後は活発になるものと思われる。</p>
建設	<p>【着工】 ・コロナの影響が薄くなり回復傾向。</p> <p>【受注】 ・コロナの影響が薄くなり回復傾向。 ・6月以降回復傾向。消費増税のローン控除特例契約期限が9月30日までであったことも要因。10月以降は来場が減少。3～5月はコロナで受注減の影響を受けている。</p>	<p>・2次拡大がなければ、今のままで進むのでは。</p>
製紙・パルプ	<p>・印刷用紙・新聞用紙の需要の落ち込みは継続。上期を通じて2割程度の需要減となった。</p>	<p>・9月以降、減産幅が縮小傾向となっているが、力強さはなく今後の動向に注目。</p>
木質バイオマス発電	<p>・木質燃料集荷状況については、前回の情報提供内容と同様に、集荷物量に対する懸念材料はない。発電所在庫状況をにらみながら、木質投入量に見合う木質燃料確保を図っている。操業面では、今のところ新型コロナへの感染者もなく、フル操業を継続している。 ・直近の集荷状況については、FIT理念を鑑みた枝条チップの調達割合が、2020年度上期において≒51%で推移した。この枝条チップについては、土・泥・金属その他異物の混入が継続して起きているが、都度混入防止への注意喚起を行いながら頻度低下を模索、更なる使用増に向け鋭意努力する状況にある。</p>	<p>・木質燃料チップの調達ルートは確立されており、木質投入量見合いの物量は確保できる見通し。一方、枝条チップについては、これからの冬期積雪影響により、製造事業地が林内製造(切削)を含め、限定的になるため、調達量は漸減する見通し。</p>
森林整備センター	<p>・森林整備センターが実施する水源林造成事業は、分収造林契約方式で事業を実施しており、施業及び販売の実施にあたっては、契約相手方との協議を踏まえ実施している。</p>	<p>・北海道地区における令和2年度水源林造成事業の販売見込み数量について、トドマツ及びカラマツは約3.3万m3を予定しているが、国又は道等が木材の供給調整を実施した場合は関係機関の対応を踏まえ、主伐や搬出間伐の販売時期の見合わせや搬出期間の延期等に協力することとしている。</p>
北海道	<p>9月時点(製材工場動態調査の9月速報(道庁調べ)より)</p> <p>【エゾ・トドマツ】 ・9月の原木消費量は前年同月比82%(8月速報 前年同月比78%)。地域や工場間で差はあるもののやや持ち直したが、本格的な回復には至っていない。 ・9月の原木在庫量は前年同月比113%(8月同比109%)と引き続き多い状況。</p> <p>【カラマツ】 ・9月の原木消費量は前年同月比71%(8月速報 前年同月比66%)。梱包材やパレット材等のスポット的な注文などにより受注量がやや増加したものの、引き続き低迷している。 ・9月の原木在庫量は前年同月比では130%(同比128%)と引き続き多い状況。</p>	<p>令和2年10月7日開催「北海道林業・木材産業新型コロナウイルス対策に関する連絡会議」での主な意見</p> <ul style="list-style-type: none"> ・丸太の受入制限の継続により、これから川上に影響が広がっていくことを懸念している。 ・梱包・パレットの本格的な回復の傾向が見えてくるのは年明けになると見ている。 ・今後の住宅着工数を注視していくことが必要。 ・輸入材の値上げの状況によっては、国内にも注文が回ってくることを期待している。 ・合板向けのカラマツは、今後はそれなりの量が販売できるとみている。トドマツも年明けくらいから動くのではないかとみている。 ・当面、安い輸入材が入ってきて道内のマーケットを圧迫するようなことは考えにくい。

○その他意見、情報、要望等

分野	自由記載
学識経験者	<p>・林産試験場では、道内の建築物に使用されている道産材率の向上と、新型コロナウイルス感染症の影響による道産材の加工流通の停滞などの社会情勢の変化に伴う課題に対応するため、人工林資源の循環利用を推進していく上でのボトルネックと考えられる小規模・分散傾向の原木・製品流通の改善を目指した研究に取り組むこととしている。</p> <p>・来年度からは、トドマツ等人工林資源の持続性と材質特性を考慮した上で、“製材からプレカットまでを行う垂直型事業体の成立条件を明らかにするための研究”と、“生産・流通体制の強化(信頼関係の強化・丸太輸送体制の強化・丸太受け入れ体制の強化)を図るための研究”に取り組む予定。</p>
素材生産	<p>・可能であれば、平年並みの立木販売量が欲しい。</p> <p>・国及び道から買い受けた立木物件は、今年度搬出期間を迎える物件は搬出期間延長により助かっているが、次年度実行することにより次年度予定していた立木物件や造林事業等に支障をきたすことが懸念されるため、翌年度以降の立木物件についても搬出期間延長等の特別措置などのご検討を頂きたい。</p>
木材加工	<p>・昨今ESG(環境、社会、企業統治)に配慮した、企業や事業に対しての投資が活発になっており、このことを無視しては経営が成り立たない方向に向かっているように感じる。特に木材利用については大型建築物の木造化を筆頭に、ESGに合致していると考えており、国として木材利用こそESGの中心的な取り組みであることを提言していくべきではないか。</p>
木材流通	<p>・「輸出原木保管等緊急支援事業」認定済み。「道産木材保管・利用拡大等対策事業費補助金」の申請も検討中。</p>
製紙・パルプ	<p>・新型コロナにより製材工場の稼働が落ち込む中、製材廃材チップの発生も落ち込み、製紙原料の余剰感は大きくない。</p>
木質バイオマス発電	<p>・流木処理(一般バイオマス)についての打診があったが、その後は具体的な動きとはなっていない。</p>
北海道	<p>「北海道林業・木材産業 新型コロナウイルス対策に関する連絡会議」を開催</p> <ul style="list-style-type: none"> ・開催目的 林業・木材産業界・団体、国等の関係者と、新型コロナウイルスの影響等に関する情報の共有や、その対策の検討を行うため ・構成員 道内の林業・木材産業界・関係団体、商社、製紙会社、北海道森林管理局 ・開催状況 第1回 令和2年4月22日(書面開催)、第2回 令和2年5月22日(web会議)、第3回 令和2年8月4日(web会議)、第4回 令和2年10月7日(web会議) ・その他 議事概要、資料等は、北海道のホームページに随時掲載(URL: http://www.pref.hokkaido.lg.jp/sr/rrm/01_rinmoku/renrakukaigi.htm)